

分かる快感！

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

異国船打払令はなぜ出されたのか？

（東京大学 2018年 日本史）



1825年、江戸幕府は異国船打払令を出しました。その前後の出来事について述べた以下の文章を読んで、異国船打払令を出した幕府の意図を、説明しなさい。

(1) 1823年、水戸藩領の漁師が太平洋岸の沖合でイギリスの捕鯨船に遭遇した。彼らは、その際にひそかに交易を行ったという疑いをかけられ、水戸藩から処罰された。

(2) 1824年、イギリス捕鯨船の乗組員が常陸の浜に上陸した。幕府と水戸藩はこの事件の対応に追われた。

(3) 異国船打払令を将軍が許可する際に、老中は日本近海に現れる外国の漁船に対しては特別な防備は必要ないとする見解を将軍に説明していた。

(4) 異国船打払令とともに、幕府は海上で日本の船が外国の船と接触することを改めて禁じる旨の法令も出した。

(5) 1810年から会津藩に課されていた江戸湾防備は1820年に免除され、白河藩の防備は1823年に免除された。その後も防備は縮小され、1825年以降も拡充されなかった。



や得られる外国の情報を独占することです。そもそもひとつは、キリスト教の禁止です。神の名のもとに人々が結集して幕府に反旗を翻すを防ぐ目的だったといわれています。

しかし、1800年前後になると、交易の窓口以外からロシア・アメリカ・イギリスといった国々が日本にやってくるようになりました。江戸幕府は諸外国に穏便に帰ってもらうよう対応をします。その中で出されたのが、異国船打払令だったのです。

異国船打払令が出された理由とは

異国船打払令は、交易の窓口以外の外国船を見つけた場合、見つけ次第追い返す、という厳しいものでした。しかし、その割には(5)の文章にあるように沿岸の防備が強化されたわけではありません。(1)～(3)の文章にある通り、近づいてくる外国船は漁船が中心で、大々的な防備がなくても追い返すことが可能、と幕府は考えていたようです。

では、異国船打払令はなぜ出されたのか、すなわちなぜ江戸幕府は外国船を追い返したのか。(4)の文章を読むと、海上での外国船との接触も禁止しているので、外国と接触すること自体をやめさせたいようです。もちろん、最初に説明した交易の独占とキリスト教の禁止は大きな理由だったと考えられますが、それ以上に「鎖国の体制が日本の伝統的な決まり事である」という強い意識があったのではないかと考えられています。最初に交易の窓口が決められてから200年ほどたち、諸外国を何度も追い返すうちに、それが自分たちの守るべき大切な伝統だという意識が

強くなっていったのではないかと、ということなのです。

そもそも「鎖国」ということば自体も江戸幕府の末期になって初めて登場したものです。当初四つの交易の窓口を決めた人たちは、それが「鎖国」だとは認識していなかったのです。

撤回、そして開国へ

異国船打払令は、その後中国がイギリスに戦争で負けたことをきっかけに撤回されます。追い払いを続けていけば、今度は日本が外国に攻め込まれるかもしれない、そう考えた幕府は、ただ追い返すのではなく、食料などを与えて穏便に帰ってもらう方針に転換したのです。しかし、その後も外国の接触は相次ぎ、1854年に開国することとなり、いわゆる「鎖国」の時代は終わりを告げるのです。 (Z会・河原井彩)

！
今回の
きょうくん
教訓

荷千年、荷百年とたつ中で「伝統」となっていくものがあります。今私たちが「伝統」と思っているものも、いつごろ登場し、どのような歴史を経たものなのか、調べてみてもよいですね。

「鎖国」だった江戸時代

江戸時代には、初期のころに、正式な交易の窓口を中国・朝鮮・オランダ・蝦夷地（現在の北海道）の四つに絞る、外交の体制が作られました。この体制のことを「鎖国」ということもあります。いわゆる「鎖国」の体制はその後1850年代にアメリカのペリーが率いる軍艦が来航して開国するまで、続きました。

異国船打払令は開国の30年ほど前に江戸幕府が出した法令です。異国船打払令の内容は、その名の通り、日本に近づく外国船を発見したら、問答無用で追い払うことを命じたものでした。開国のわずか30年前に、このような法令が出されたのはなぜだったのでしょうか。

江戸時代になったばかりのころ、日本は交易の窓口をとくに制限はしていませんでした。江戸幕府が交易の窓口を管理するようになったのには、大きな理由が二つあるといわれています。ひとつは、交易を幕府が管理して交易によりあがる利益

河原井彩さん 2007年に入社。中学生向け社会、高校生向け日本史教材の編集を経て、現在は幼児向け教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。